資料 4.1955 年 1 月「奥又合宿備忘録」〔文献 9),24),49),51),53),71)〕

奥又合宿備忘録のノートについて

① このノートは A5 である。

② 表紙・裏表紙を除いて 58 ページ

③ 見開きで「第 17 報」「第 18 報、最終報」の次の見開きページは白紙。白紙見開きページの右側の裏に、メモ「1 月 2 日…」が記されて、破かれており、ノートに挟んであった。

◎ ページ毎の構成

表紙

表紙裏

1. 白紙
2. 白紙
3. 白紙
4. 「1955 年冬山参加隊員」
5. 「救助隊員」
6. 「現地からの連絡と処置」「第 1 報」
7. 「第 2 報」
8. 「第 3 報」「第 4 報」
9. 「第 5 報」
10. 「第 6 報」
11. 「第 7 報」「第 8 報」
12. 「第 9 報」
13. 「第 10 報」
14. 「第 11 報」
15. 「第 12 報」報告及び伝言

16. (室２談)
17. (室３談)
18. (室４談)
19. 「第 13 報」
20. 「第 14 報」
21. 「第 15 報」
22. 「第 15 報」
23. 「第 16 報」
24. 「第 17 報」
25. 「第 18 報」「最終報」
26. 白紙
27. 白紙
28. 「1 月 2 日…」〔メモ：破ってある〕
29. 白紙
30. 「見舞…」
31. 「見舞客…」
32. 白紙
33. 白紙（厳密には、「会」という一文字だけ書かれている）
34. 「会計簿…」
35. 「石岡氏宅本部経費…」
36. 「モンク-…」
37. 「島々…」
38. 「入金…」
39. 「支払いの部…」
40. 「支払いの部　赤嶺先生…」
41. 「支払い　社長の…」

42.　「支払い　中道先生…」

43.　「支払い(収入…)」

44.　「パーティ別…」

45.　白紙

46.　「〔名簿〕」

47.　「〔名簿〕」

48.　「〔名簿〕」

49.　「〔名簿〕」

50.　「〔名簿〕」

51.　白紙

52.　白紙

53.　白紙

54.　白紙

55.　白紙

56.　「旅行の道途　カトマンズの渓谷を離れて…」〔石原國利氏著〕

57.　白紙

58.　「FOEWORD(by Brigadier…)」〔翻訳〕〔石原國利氏著〕

裏表紙裏

裏表紙

NOTE BOOK

Most advanced quality

Gives best writing features

1955年1月

奥又合宿備忘録

岩稜会

NISSHO

1955年冬山参加隊員

（出発順）

22日発	沢田 榮介	鈴鹿市神戸飯野寺家町（神戸252）
	石原 国利	下宿先 東京都世田谷区深沢町1の47 三田陽兵衛方
	若山 五朗	愛知県海部郡佐織町見正中（呼出 津島2211 山本之）
	南川 治資	津市古河（津2582）
25日発	石原 一郎	福岡県直方市殿町
27日発	高井 利恭	三重郡楠町本郷 6日朝名着
	高井 吉史	（三瀬谷局104）宮川ダム 南発電ム所 6日朝楠着
30日発	上（カミ）岡 謙一	福岡市比恵本町三丁目860 6日朝名着九州へ
1日発	松田 武雄	鈴鹿市神瀬蒼町（神戸423）
	室 敏浦	〃 神戸河町（神戸238） 5日夕神戸着
	森 泰造	四日市市沖の島町 森文具商店（四日市2926）
	北川 たづ子	津市榮町（中西は津1800）
	太田 清嗣	鈴鹿市北長太町（楠34）

攻登目標

前穂 四峰正面　北條：新村ルート
松高ルート
明大ルート

前穂 四峰東壁

北尾根

救援隊員

（出発順）

1955年1月3日
名古屋発 ~~20~~朝8.05

石岡 繁雄
赤嶺 秀雄
新井 春郎
三林 隆
} 6日朝名帰着

3日夜12時上高地ホテル着

3日夜 新宿発

○清水（ダム） 稔
~~松本の医師~~
} 4日 上高地ホテル着

4日名古屋発朝10.

若山 英常（ツネ）太氏

松本 飛騨屋旅館で待機

4日名古屋発 夜行

中道 恵
佐藤（モンク） 茂生
西川 忠行
○黒田 吟哉
} 帰順

5日 台ヶ原には ホテルに着いていた
室と、雲間の滝ですれ違ったわけ

大北氏（名大）
岩瀬氏（名大）
} 6日朝名着帰
6日朝名着帰

若山富夫氏

~~中河氏（三重大講師）~~
浅井美利義成
毛利広昭（三重大）
}

小山義治
飯田太（つとし）
（岡山大学丸田外科）
}

4日 ~~清水ダム~~ ホテル着
夜

現地からの連絡と處置

第1報（電話）

1. 1月2日午後七時　長距離電話　上高地発島々経由

石原一郎発『1日. 国利(石原) 榮介(沢田) 五朗(若山) 東壁アタック第二テラスに出たこと確認、其の後ガスのため消息断つ. 同夜オカン.

2日. 上岡・高井 A沢を登り、前穂頂上附近まで捜索するも足跡なし. 故に登路を失い下降しつゝあるものの如し. 正午頃石原天幕地を降り午后7時頃島々着

(註. 島々着とあるは受信者の誤りで石原氏は上高地まで降って電話をかけたものである)

2日午後7時現在　坂巻に松田・太田・北川.
上高地に~~島々~~に室・森

尚 2日午前 関西登高会の方が又白池に来たので捜索を依頼』

石岡氏及伊藤経男(社長) 受信

第2報（電報）

2日午後9時着電報　発信者は石原一郎氏で、おそらく上高地から島々まで電話、島々から電報にしたものであろう。
内容は左頁の石原氏の電話と同様。

「ゴロウ サワダ クニトシ トウヘキノボリ カエリニ
フブキノタメ マヨウ」

石岡氏及伊藤經男氏 受信

第3報（電報）

3日午后5.50着　島々4.16.40局発　石田氏発

『アタラシイ　シラセナシ　シゲオ』

第4報

3日　23時45分 — 24時15分　電話

『16.30　バッカスは島々局に寄ってハイヤーで上高地に向う山吹トンネルにてハイヤーを捨て、蒼魚場の息子さん（村橋より同乗）と共に上高地に夜中の10時30分に到着

バッカス、赤澤、新井、三林　ホテルに到着し待機ある

石原国利、深田肇介、若山五朗の三名　難訪多ガイドブックでいうところの第二尾根から応答を得たとのことで望みあるとのことである　救援隊全員現場に向ったとのこと。

現在隊員の居所
到着待機中
待機中
到着

石原、森、室の三名はベースまで
松田、太田、北川の三名は蒼魚場で
バッカス、赤澤、新井、三林はホテルに

凍傷治療準備、救援隊の出発準備をせよ』

処置 1. 若山宅へ電報「ゴロウソウナンラシイ シゲオタツバンゼンノテハイアリアトシラス」
2. 石原宅へ「クニトシソウナンラシイ バンゼンノアハイシタ イサイワカルマデアテイシオカ」
3日午后8.30発

第5報　1月4日午前11.30 受信 電報 電話　石岡氏発

~~『クニトシブジアンシンセヨ イシオカ』~~

『国利、沢田無事又白のテントに救出、五朗ザイル切れ落ちた、全力で遺体捜索中
二名の状態、凍傷程度の如何により德沢まで下れるかも知れない（註4日中に）

見越え次の連絡せよ　電文「父上母上最大の不孝をお詫びます、しかし他の2名が無事だったことを感謝します」
若山富さんに見越え行ってもらいたい　新聞社へは連絡しないで處理すること』

處置　1. 見越え、バーカスの電文を直ちに発信と共に敏子夫人が見越へ4日の午後行った。

2. 石原氏宅九州へ電報「クニトシブジアンシンセヨイシオカ」

3. 石原国利氏下宿（東京都世田谷区深沢町1の47 三田彌兵衛宛）へ電報「クニトシブジアンシンセヨ イシオカ」

4. 三林隆の欠勤届は、西川が三重県農業協組四日市支所長へ直接持参して手渡した。
課の方の連絡も出ました（西口氏に）

第6報　4日午後1時15分受　上高地バックス発電話

『沢田　足凍傷悪いが　自分では良いといって大変元気
4日中に上高地まで下る予定
岡村は全然元気
中道氏へ連絡せよ　名大から凍傷の権威者を今夜
夜行で発つよう依頼してあるから一緒に来てもらう
ように』

処置　4日午後1時30分　新聞記者からの電話がうるさいので
中道社長　本田氏その他会員多数立会いの下に
石岡氏宅にて　情況を報せてやった。

発表文
「1時15分島々局経由上高地にて石岡業雄氏の
連絡によれば　石原　沢田は天幕に収容したが
生命は無事であった　残る一名の若山は捜索
中であるが不明　遭難原因はザイルの切断に
よる墜落らしい」

（註　中日新聞だけには　鈴木氏に13.00本部へ来てもらって
先に連絡し　~~その他には~~　その後　中日も共に上記の
発表を行ったもの。）

第7報
4日 19時10分　上高地バッカス発電話

『中道氏は松本にて若山常太氏と合流するように。
名大医学部 大北、岩瀬と富さんが同行（名古屋から中道氏等と）する予定である。
石原と、沢田は養鬼場まで降っている　松本から
向もなく医師が来る予定なので、清水（がうちゃん）の
案内で養鬼場まで行って治療に当る予定。
若山は依然行方不明』

処置　出発準備中の中道氏に直ちに連絡。　ウイスキー　カメラ　謝礼　発見した時用　薬品
黒田、佐藤モニク、西川忠　神戸発 19.20.
中道氏　20.20 神戸発

第8報　4日21時10分　上高地バッカスより電話

『見越のお母さんが行きたいといっているが、上までは来られないから、坂巻までなら来てもいい。
その時には、毎子夫人に一緒に来てもらうか
上高地から北川さんを迎えに下してもよろしい。
その旨 津島に連絡して返事せよ。
もし五朗が見付かったとき上高地まで降せないから、
富さん、常太氏　立会いの上、奥又の出合で火葬にする予定でいる。お母さんは従って、遂を見ることは出来ないことになる。
現在まだ見付かったという連絡はない。』

処置　直ちに見越に意向をきいたら御両親共そう行かないといっておられた旨　22.10分 バッカスに電話した。

第9報 2 4日 午後10.10 上高地バックス ⇄ 河町本部

河町から「見舞へ21時すぎ連絡したところ行く必要なしとの返事がありました。」

バックスから『国利・沢田の状態 石原は凍傷全然なくとても元気である。沢田は両足に凍傷にいるため養鬼場からかついで降しつつあり間もなくホテルに着く予定。既にホテルに松本の医師が着いている

当夜から（4日夜から）明日にかけて全力で捜索中であるが 明日で捜索は打切る予定である 明日は五朗が合と思う。』

河町「今晩そちらから連絡の見込みや」

バックス『連絡はない予定である』

河町「五日以後の行動予定を立てもらいたい』

第10報 3.

5日午后1時15分 バリカス上高地発電話

『沢田栄介、石原国利は無事上高地着。非常に元気で食慾もある。
沢田は右足指先の凍傷ひどく、そりで下山する予定である。発熱していない。

五朗は今回は猛吹雪のため依然不明で、テントの方も心配しているが、小山氏以下強力なメンバーだから大丈夫だと思う。

社長は出発までに一名上高地に連絡してから出発してもらいたい。

室は、五日朝上高地から下山、今夜中に(五日夜)神戸に着く予定。

高井も今日中に上高地を発って今夜の夜行に乗る予定。

(石原、沢田二人とも電話口にて)(元気であると云った。沢田は兄とも電話で話し出来た。)

中道代参一行10名は未だ上高地に着いていない。

処置
1. 新聞社が通話毎にうるさいので記者クラブへ連絡。
2. 沢田はうちに報告に帰る。
3. 上田天人(速達) 中部銃刀と津へ、北川、松田の各店
高井の各店 宮川各商務事務所へ郵送。

第11報

5日台 5.00　上高地バッカスより電話

電話きっとりがたし。

『中道氏一行 上高地に到着した
沢田は今下山途中で 5日の夜行に乗るつもりをしている。
中道氏、黒田勘吾は、2.3日上高地に居残る
現在テントにおるのは、石原、松田、三林、太田
南川
五朗は依然として不明で上からの連絡はない。
テントとの連絡のため小山氏、森泰造がテントに向ったが、ものすごい吹雪のため途中から引返した。
石原氏等の顔をみるまでは下山の予定はたゝない。
河町に多勢つめている必要もないから休んでもらうように。今夜は電話しない予定だ。』

処置。

1. 沢田鶴松氏に早ければ明朝帰宅される旨電話した。
2. 沢田喜々太郎、今井、の二人 21.20 ~~20.48~~ 神戸発 名古屋へ行き早朝 沢田を名古屋に迎える。

第12報.(報告及伝言)

室 敏陽君宛 20日時30分到着.

1日朝 3人出発. 第2テラスに昼までに着かねば引返すことにあっていたが.
午後3時になり. 尚登ることとし. 頂上直下 20mで
オカン. 翌2日朝. 国利トップで登ったが 3mストップした時止った.
翌2日午後4時 脱臼して戻った
午後4時 高井兄. 上岡二人によって
着いたことは 2日 夜7時になって 初めて分った.
午後7時

2人共 伍朗氏の着いた場所で 動けなくなり. その晩も. オカン(その場で)したわけ.
ツェルトだけ
高井達は 2日の午後4時 2人と話をした.
それで着いたことが 初めて分った.
12本のハーケンがあったが. カラビナは5つ.
ハーケン7本着し. 最後のアックスザイレンにピトンが不足するに至って 懸垂もできなかった.

高井が天幕に急報 石原、高井第二人は
上高地に下り. 電話した. 途中剣岳登高会. 早乙田に依頼
Bルンゼ Cルンゼに着いたものに違いない.
3人は. B沢をつめ. Cフェース 北壁 ― 第一テラス. Bフェース. 第2テラス
Aフェース途中で オカン. 2日間2晩 同じ場所でオカンしたわけである.

（室之談）

3日には、石原氏があらず。それで、早や田4人

関西登高会（10人）、梶本氏以下10人位）、西条や2人　と共に、

校士　3日11時（到15時）　2人とも元気であった。

室がA沢にかかったとき、上から下りて来たおけ、

意識も元気も旺盛であった。

沢田は足が凍傷　特に右足が悪い。

国ちゃんは、右手の指がいたい左耳がいたい足は

靴がよかったので大事なかった。

テントの中で、湯の中でそんだ。足は痛かった。

沢田は寒さなくっだったので凍傷になったものである。
アイゼンをしめすぎたのではないか。

4日　室は、徳沢を経て上高地に下り、再び徳沢に連絡に

行くのに丁度沢田と逢一行と出会った。

4日はいい天気だったが5日今日は悪い。

高井、ニューギニヤは2日間の投宴でフラフラ。

杉田、三林、太田、石原氏が4日天幕に上り、

投している。

（室3談）

5日はとても捜せない。天候非常に悪い。
中道さん達10人とは、雲間の頂附近で会った。

それまではいつも、五朗ちゃんがミッテルだったが、
2日目は、一すのところが全然登れず、
岡さんに変って、五朗ちゃんがトップにたった。
岩にかけてつり上げようとした。（バッカスの注イを忘れてしまっていたものである）（バッカスは残念がっていた）それ以上詳しくきいても、2人は近きだおので、詳しくはきけない。
食糧距離で、ズル休み、と云った。それを抑えるのに苦労した位である。
雪洞はとても立派で、2人が2晩同じ場所で、ツエルトだけで岩壁の途中でおかした。
体力は知らず、気分的には、もう1晩までならもっと悪うを云っていた。
高井の呼び声に僅かしか返事を来なかった。
声が出なくて、5回呼んでも1回位しか返事を来ぬ。
救援をおめて上ばかり見ていたので、首、肩が痛いといっていた。
5日は、それには丁度よくスキーには少しさびしい。
タクシーは沢渡までなら入れる。

処置。1. 室から直接沢田氏宅へ電話し、沢田君の、最も近い情況を報せた。
2. 今井、沢田兄2人は、名古屋へ21時出発。
3. 松田、太田、森へ室から直接電話報告。

（室氏談）

2日に喜井、上岡氏　2人が行っても、1人が降って結びつけ
1人だけで引張り上げねばならぬ　それは困難だから
声を聞き合ら喜井は引きとげた（又白に）
3日には10名人でやっと引き上げることが出来たのである。

早大田、4人　西条屋、2人　上岡喜井
関西登高会2人

下界への急報と、2人を救けるのと　どちらを先に
すべきであったかは、軽々に論じることは出来まい。

石原氏は又白に岩稜会だけしかいなくて、困ったので
下に下ったわけである。下りる途中で関西登高会に
会い依頼、徳沢で早大田に依頼、ホテルで下界
に電ワしたわけである。

最初新聞に漏れたのは、太田が自宅へ言ったことから
始ったかも知れぬ。（本田、石岡田堂）

バツカスからの伝言

1. 発見されたら暇があれば一緒に行動した人は
ダビに附すときに参加した方がよい。
2. 五朗のことだからはっきり云えるけど（他の人だったら云えないが）
死体が見付かっても、危険だったら打切って初夏を待ってもらいたいと思っている。
3. 詳しいことは室に話してもらう（現場の情況について）

今井、沢田兄の5日夜泊った旅カン　名ゴヤ駅前長谷川旅カン(54) 1630
右11.15　沢田宅へ伝えた

第13報　6日 朝 6.25
名古屋にて　沢田兄発電話

『今 汽車で降りて来た。メンバーは、名大の先生2人
赤嶺先生、高井兄、高井弟、そして、沢田弟である。

紫介は しょげている
今から、名大病院に入院して、9時に診察を受ける
ことになろうと思われる。

病院に行くメンバー
沢田弟 名大の先生2人、赤嶺先生、高井兄、今井、沢田兄。
帰宅する人
高井弟　神戸へは電話連絡することになるかもしれない
とのことである。つまり、すぐ神戸に行くとは
限らないの意
以上 報告。いづれ病院から又電話する
沢田の家に連絡願う』

処置 1. 沢田氏へ電話 沢田氏、名古屋へ行くつもりである。との通事
2 本田氏、中道へ電話「神戸駅出迎えの要なし」

第14報　6日前10.17. 河原田より高井吉史発電話

『沢田榮介の凍傷はあまり心配しない方がよいということが云える。

国利さんは2,3日上高地におって、歩けるようになったら自分で下る　といっていた。

五朗さんの捜索は、現在　石原、松田、太田、新井、南川があたっており、小山さん、西条屋2人は昨日5日の朝　天幕へ登って行った。

黒田吟哉は上に上って行ったが、同級生の二人西川、佐藤モンの2人は、沢田を、沢渡まで下したあと、ハイヤーに乗れないから、この二人は、今日の汽車で帰ってくる。

赤嶺さんは、今晩までには当然帰るであろう。

新しい応援はいらない。

ホテルでは、木村さんが石岡氏と打切ってはどうかと話していた。

上岡さんは、一緒の汽車に乗って名古屋に降りたが、すぐ博多行があったから、今朝、九州へ帰って行った。』

第15報　6日前 10.40 名大病院より 沢田兄発電話

『今入院した　2晩 寝ていないので 沢田様分は 寝かして
今 眠っている
診察はまだだ.

連絡　名大病院　今永外科　1号詰所に願う.
代表電話. 名古屋 (73) 1521
』

処置 1. 沢田氏宅へ電話して 上記連絡.
2. 社長他2名分の 中央線 今夜の乗車券は 払戻し
又は 他に転用するよう取計った.
3. しかし 社長が すぐ 三宅から 帰ってきて 再び 切符
の払戻しは取止めた. (合1時半)

第15報　6日午後1:47—1:53 上高地バンカス発電話

「沢田の模様はどうか
社長上ってくれ。今夜あてもらいたい
持ってくるもの
ゲルト　2万
油紙　5枚
伴ソウ帯5箱
50cc注射1本
生肉
野菜ネギ
）中道氏から依頼
）すまやましたい
回診。布原　神戸にあづかってもらいたい。みんなが揃うまで
五朗は全然分らない。
小山氏他5名今日又田の登って行った。
森泰造は8,9日に帰る
富天氏。英太氏帰った。
見越から電話で　ソウサク打切れといってきた。
おばあちゃんの手紙見た。梓の手紙はまだ見ない」

処置　1. 森泰造に電ついて8,9日帰ることを伝えた。
2. 社長、林、上田と三人行くことに決定
3. 中道氏に薬品用意依頼
4. 上田は学校に報せたが　自宅にはしらせてないから
7日朝一番に電報で
サダオ　シャチヨウトカミコウケニユク　お願いす。

第16報　15:25. 今井沢田宅 赤嶺先生着

沢田は病院で寝ている
主任はいないが うまくいけば 切断しなくてすむ

○ 6日午後8時30分 帰宅
佐藤 西川 帰宅
昨夜 沢渡に宿泊 バスにて今朝出る 松本発
午後13:01分の列車に乗る

~~第14報~~
~~7日 午後2時30分~~ 上高地発バスにて
~~○ 今日天幕を撤収 上高地へ下る 明8日の松本にて~~
~~松本を発つ予定~~
~~○ 名古屋より すでに名古屋 名古屋兄弟が見越の峯向を1周~~
~~迎えよ 終よんも名古屋までお向へ来るかも~~

~~厳重~~
① 上田先生の負傷原因 場所 自宅 電報 電話 その他
② 新井 三林 北尾 吹哉 上田 松田 清水 太田 南川宅へ
8日朝帰ることを連絡した 北川さんは山川さんに頼んだ
③ 見越の道中はバス一人でよいとの事

第17報.　　9日 午后3時5分　長々より(バックス)

全員テントを降りる(五郎探すなど不明の為断念する)
全員8日の予定にて帰宿する. 9日の朝5時頃に
名古屋着.
社長、上田先生上高地へ無事到着す.
見越の方へ電話で知らせてくれ.

処置. 1. 全員の帰宿を名古屋へ連絡する.
2. 見越へ電電話してその結果を槍長々屋へ電報を打つ.
3 新井, 三林, 社長, 吟味, 泰造, 上田, 松田, 太田, 南川, 北川, 清水. 宅へ連絡した
4 見越の意見はバックスートでよいとのこと.

第18報、　17日 午後7時20分 神戸より土倉地へ、
見越の意見を伝えた所 全員直ちに名古屋へ帰宅
するとのことであった

処置：見越へ連絡事項
バッカスも名古屋から下ぐには見越に行かないことを伝える

緊急処置を必要とするもの

~~警察署への捜索願を提出する事。~~
（その際に2,000円位の物を贈る事。）
~~捜索願の用紙を用意する事。~~

最終報

9日朝全員名古屋着　中道・上田は生に神戸へ帰り　残り全員は見越へ向う。見越より帰りてからは名古屋より毛利・浅井・南川は名大病院へ行き其の他は3同夫人と共に全員12時18分神戸着にて帰宅する。

同日夜 泥田学介市役所救急車にて帰宅する。

以上で全員帰宅したわけである。

一月二日

『ゴロクサイダ　クニトシ　トラヘキノボリ　カエリニ　フネキイタメマコラ』

私達の悲しい事件はこの電報から始まった。新らたな年の二日目、新春を祝ってた気分もどこへやら私達の心は一瞬の内に雪と氷に閉ざされた

上高地から又白地へ更に労務班長のA君へと追いやった。

何故とはあれ会員へ事故の発生、救助の必要を電報、電信にて連絡する

えへの連絡の終ったのは翌三日の午前二時頃であったろうか、

取りあえず、石田氏ミネと年末より御在所に行ってた三林、新井

の四名が明日の朝出発することになる。

一月三日

見舞

種別	芳名		受月日	備考
	福岡市柏原町二 緒方直彦			
電報	緒方 道彦		1月5日 后2.15	平電
電話	石岡	名古屋	6日 前9:25	
電話	谷本光典	津島	6日 前9:40	
〃	〃	〃	7日 后9.30	
電報	関西登高会	橋本穂次郎	1月9日 后4:30 橋本引	平電
清酒一本	太田清蔵		1月9日	見舞
葉書	筒井勝彦	農会部	1月5日 山田発	
見舞金	小山義治	土場地		500
〃	西条屋	〃		300
〃	北穂会	〃		500
〃	三重大美浄先生	津市三重大浄芸浄部内		1,000
〃	中京山岳会	熊沢友三郎	1月13日	1,000
葉書	中京山岳会		1月13日	
見舞金	亀山高校山岳部	伊藤忠夫先生		1,000
〃	神戸高校山岳部		1月16日.	1,500

見舞客

1月4日 20時	伊達忠雄氏	鈴鹿市下箕田町.
1月7日 14時	浦川七吉氏.	
〃 13時	杉浦氏.	

会　計　簿　（控）

1月2日	伊藤社長	15,000	入金	石岡氏預
2日	沢田鶴橋	5,000	入金	石岡氏預
4日	長谷川喜作（光男君の父）	5,000	入金	中道氏預
2日	石岡繁雄	10,000	入金	石岡氏預
6日	石岡重雄	10,000	入金	社長持参
6日	伊藤社長	10,000	入金	社長持参
6日	室敏弥	5,000	入	上田持参
6日	沢田鶴橋	5,000	入	社長持参
8日	望敏弥	1,000	入	
↓	石原一郎	34,000		
	北川たづ子	1,000		
	太田清蔵	2,000		
	松田武雄	2,000		
	中道恵	5,000		
	津大三宅先生	1,000		
	小山氏・北穂会・西糸屋見舞	1,300		
	上岡合宿費	2,000		
	毛利友昭	2,000		
	南川治資	4,000		
	清水稔	15,000		

石岡氏宅本部經費

電話料 ——————————

木炭　1俵 460円 程上 ——

食費 ——

郵便料（久木ノ屋その他）—— 二沢田兄支出

電報（電話代に含む）——

(沢渡)

モンク－ 旅費


¥335 岐阜より

名古屋往復 ― ¥220.―

高々 ⇌ 名古屋 ― ¥515.―

バス ¥95.― 計 830.―

吾川 － 名古屋往復 ¥180.―

高々 ⇌ 名古屋 ¥515.―

バス ¥95.― 計 790.―

1620

太田清 関及人ム立替 ¥925.― 計 925.―

1,060

上田・社長パーティー分

名古屋往路(上田自費) ¥110.―

名古屋・長野間往路(中日前借) ¥570.―
二人分

松本～沢渡ハイヤー ¥2,250.― 計 3,990.―

社長・上田書食 ¥300.―

チョコレートリンゴその他 ¥760.―

B 4 110.–

– 4285. –
800.

入金　上田の分っている分

1. 石岡繁雄　20,000
2. 伊藤社長　25,000
3. 沢田鶴治　10,000
4. 長谷川喜作　5,000
5. 室　毎月　6,000

これは、このノートに4頁前に載っている。但室は1,000別に上高地でもらっているから6,000になるのだ

6. 三重大　1,000　(近有の要作)
7. 石原　4,000
8. 南川　4,000
9. 北川　1,000
10. 太田清　2,000
11. 毛利　2,000
12. 松田　2,000
13. 中島氏　5,000
14. 清水稔　15,000

以上は、ホテルで持金を吐き出してもらったわけである
室はここで1,000おいたが、その所に加えて6,000にしてあるからよろし。
三重大1,000というのが分らん。恐らく中村先生がバッカスに渡したものと考える。

15. 上田氏合宿ヒ　2,000
16. 見舞　1,300　(但し、小山氏 500　北本舎 500　西条や 300　のし付であるから開封していないでバッカスが預り)

一応済

支拂の部　上田の合っている分

1. ホテル　宿泊費
　　食事費
　　米　代　　~~15,000~~

これは、ものすごく安いことを明細と見較べて下さい
木村さんの好意である。

2. 大正池の壹名の清算　~~1,150~~
3. 坂巻清算　~~3,800~~
4. 沢渡西村屋清算　~~3,125~~ (清算あり)
5. 島々郵便局の電話料　~~4,000~~
6. 同局への謝礼　1,000
7. 島々ケイ察署へ　薄謝　300
8. 沢渡 → 島々　バス　~~2,475~~ (21人分
9. 島々 → 松本　電車　~~945~~　21人分
10. 松本タクシー　清算
　　~~5,700~~ (領収あり)
　　名古屋沢田を降した時の大型2台
11. 浅間行バス　21人　~~4,420~~
12. 御座の湯の夕食　~~7,460~~
13. 鷹鳥湯の清算　小山氏に払す　~~5,000~~
14. 便箋　(浅間で)　75
15. ひだやで荷物預及びネし　500
16. 浅間 → 松本　バス　~~420~~
17. 西条屋　清算　~~5,335~~ (清算あり)
18. 松本 → 名古屋　その他
　　~~20~~ 19人分　~~7,485~~
19. 名 → 神戸　2人分　~~220~~

バッカス　太田清
石原　黒田
石原弟　清水ダウ
中道　ヒロシさん
社長　南
上田　浅井
松田　毛利
森　加トウ先生
新井　津島の青木氏
三林　津島の鈴木、津島の大橋

任後

上田からもらったのは220だけで、あとは社長が出しているはず

(但しダウちゃんと、津島の先生の二人は自動車)

(但し中3名上田の2人だけ)

(一応済)

知ってる

支拂の部　赤岩先生の分　計 3544

6日夜　牛肉／骨メ　社長上田がボツカしたもの　} 1,850
ネギ／骨メ　〃

パン代	~~100~~		
切符拂戻し損料	~~40~~	(タクシに変更のため) 10×4	+615
ローソク (16本入)	~~80~~	15×6	
タクシー代	~~200~~	信州大学病院→ひだ屋 2台	
ひだ屋謝礼	~~200~~		
沢渡(松本からご電話料	~~35~~		
松本—名古屋準急	~~960~~	(但し沢田・赤岩の分)	

¥20,000円の中 (130正宝)

支拂の部　バツカスの知ってる分 (11,000位)

朝戸→名古屋 (刈田・赤岩・今井)		~~330~~
名古屋→松本	380×4	~~1,520~~
ワイヤー代 (名古屋で)	140×4	~~560~~
そば		~~240~~
弁当		~~250~~
みかん (松本) ~~ビール~~ 等 (キャラメル・ゴム手袋・佐藤先生紅茶)		~~945~~
電池 等		~~1,250~~
ストッタ・引き・前幸		900
肉・ハム・		~~890~~
ドーナツ		~~150~~
松本→山の上にネル ハイヤー		~~2,100~~
沢渡・昼食	150×6	~~1,000~~
その他		735
		~~10,135~~ 10.870

一次分

支拂　　社長の知ってる分

8時　新幹線名古屋代(松本駅)　¥120.—

三重大学へ貸方(南川・毛利・浅井)　¥1,000.—

電車賃　30×3=90
バス代　80×3=240

¥330.—
¥140.—

計　1590.—

支拂　　中道先生の知ってる分

支拂（收入）　合宿費関係に詳しい人の知ってる分

支拂（松本）　その他見舞に来てくれた人の経費に詳しい人の分

加藤高雄は　上高地まで独と自転車　帰り道はすべて一緒の支拂

津島の2人も　同様

津島の先生は　沢渡まで自転車で来て合流し下りはすべて一緒

清水ゲウ地人は　自転車で上り　帰り松本からも自転車で東京へ

上田は　名古屋までの電車賃までは自転車で来たが　あと名古屋の独と以降すべて　まかなってもらうことになったのは誠に恐縮でした　ご、あとの独と、など本宅にきいて電車賃その他ホテル代等送ります

社長は

※ 支払

~~三林 新井中のふつうホイホイ代　1,360~~

パーティ別、行動別 終了のうち どこまで 役割がいくら
自辨しているかを、明細に記すこと。

石岡 繁雄	鈴鹿市神戸河町（神戸156番） 名古屋市昭和区山手通 2の14 名古屋大学東区南外堀町名大学生部教ム課 ㊃1711
石原 一郎	福岡県直方市殿町
赤嶺 秀雄	鈴鹿市平塚池町（鈴鹿41 渡辺館方さん呼出）
伊藤 経男	〃 神戸北野町（神戸172）
中道 恵	〃 神戸本多町（神戸322）
上岡 謙一	福岡市比恵本町3丁目860
松田 武雄	鈴鹿市神戸南崖町（神戸423）
室 敏彌	〃 神戸河町（神戸238）
森 泰造	四日市市沖の島町 森文具商店（四日市2926）
真井 利恭	三重郡楠町本郷
高井 吉史	（三瀬谷局104 多気郡三瀬谷町佐原宮ノ前発電所）
清水 稔	鈴鹿市北若松町 清水醸造所（若松11） 千葉県市川市真間 長崎実方
北川 たづ子	津市栄町 津市雲居町 中部電力津支店（津1800）
沢田 栄介	鈴鹿市飯野寺家町（神戸252）
石原 国利	下宿先 東京都世田谷区深沢町1の47 三田満兵衛方
太田 清嗣	鈴鹿市北長太町 太田醸造所（楠34）
新井 春郎	鈴鹿市本多町 名古屋市昭和区 名大附属病院伝染病棟第五研究室
三林 隆	神戸北気田部町 四日市市浜田三菱電連四日市支所 資材課（四日市4161）

若山五朗　愛知県海部郡佐織町見越（津島2211／山本さん呼出願）
（父）繁二　津島市今市場町4の9昭和紡機株式会社常任監査役（津島2117 2118）
若山英常太　名古屋市東区　千代田電機株式会社（⑨4572）
若山富夫　岐阜
✓谷本光典　（津島3314）谷本医院
~~名古屋市昭和区~~愛知県海部郡トヨラ

中河留蔵（学）津市上浜町三重大農学部内（津162）
（自宅）三重大学第二農場内、河曙郡上野久知野（伊セ上野8）
浅井美成　津市上浜町三重大農学部寮内　総合農学4年
✓毛利宏昭　~~名古屋~~名古屋市東区長塁町鰹島パン研究室内（④1631）
✓南川治資（自宅）名古屋市昭和区　津市古河（津2582）
須賀太郎　名古屋市
✓伊達忠雄　鈴鹿市下箕田町（箕田郵便局）

大北　名大附属病院日比野内科
岩瀬　〃　〃

✓小山義治　長野県東筑摩郡波田村1735
✓梶本徳次郎　（自宅）大阪市旭区新森小路南一丁目一二一
✓南西登高会　（勤務先）大阪日東建設株式会社　（事務所）大阪市北区葉村町1丁目　浅野氏方（28年山日記より）

✓加藤富雄　四日市天須賀　暁学園内
✓青木幹治　津島市兼平町一丁目
✓鈴木嘉男　海部郡立田村　蓑ケ森（訳渡まで登ってきたとき我々と出会い引返した人）
✓大橋遥　津島市今市場三丁目

✓飯田太　信州大学生　信大病院気付

黒田　吟哉　　鈴鹿市中箕田町　（神戸239）
佐藤　茂生　　〃　野辺町
西川　忠行　　〃　北堀江町（黒田の家から100m）

本田善一郎　　鈴鹿市神戸北野町　（神戸12）
今井喜久郎　　〃　〃　〃　（神戸372）
中道　雅　　〃　〃　本多町　（神戸322）
岩佐　弘　　〃　〃　小山町
長谷川芳男　　〃　千代崎町　（若松123）（伴文具店神48）
沢田壽々太郎　　〃　飯野寺家町　（神戸252）
林　邦美　　〃　北長太町
山下　弘　　〃　北長太町
毛塚一男　　〃　西玉垣町　→東土木出張所（神戸29）野町駐在所で呼出し願う
鵜垣　達　　〃　河町
上田定夫　　亀山市安坂山町1579　電話連絡あまりに不便だが
亀山高校（亀山144）

野登局4番　農業組合に帰り連伝言とう。

財団関係の人々（財団山岳部部室与件）

✓ 鴨原啓佑　浦和市元町3の146
✓ 日下田実　栃木県益子町
✓ 寺谷昌恭　文京区駒込神明町
✓ 安藤英弥　杉並区阿佐谷

信濃毎日新聞記者

✓ 瀧口直　松本市二の丸町三一（松本本社 TEL 2998 or 240）

朝日新聞記者

✓ 小林巖　松本市大名町七四（朝日新聞松本支局）

[redacted]
三重大学学芸学部
助教授

✓ 兼定政造　津市広明町八五番地
✓ 同事務長　中元勝助 TEL 津 2110

✓ 西条屋　松本市上土淵 坂本方
✓ 銀右ゼル（小林鉛二稱ス）宅 玄関

一島七郵便局
松本タクシー
松本駅
名古屋写真
ひだや旅館
西巻
沢渡 西村屋
大正池 貴店
帝国ホテル 木村氏

亀山書房 山岳部　伊藤忠夫

菅瀬正次　名古屋市昭和区鶴舞町 名大医学部病理
石田孫四郎　東京都杉並区神明町 46 小林方

旅行の道程

カトマンズの渓谷を離れて，我々は今やエヴェレストへの175マイルの行進を開始しようとしていた。これは我々をキャンプベースキャンプへ連れて行く17日にわたる旅行の始めである。荷物を輸送するために我々は約350人のシェルパを雇入れた，カトマンズ地方の土地のポーター，ちべての我々の山の装具を運ぶために，

それらの土地の半数そこで，~~[illegible]~~，この変れた土地の西南端にそって，重い荷物を運搬することによって規則的に給料の糧を得ている人々がいる。

FOREWORD (by Brigadier Sir John Hunt)

1952年の秋の頃に我々の遠征のための準備の頃に於てでさえも エヴェレスト遠征には 偉大な そして荘厳な 雰囲気 が あることは 既に明白であった。

美しい そしてどちらかといえば 静かの日々で 旅行した 驚くべき経験をもたねばならなかった ごつごつした 氷のかたまった 荒地, 世界の頂の前にある, に入りこむこと

私達は これらの物に対してある準備をもった, 幸運であったが, 我々の共通になって その動かし方 という ことは なかった.

一月三日

昨日 ダージリンに 着いた。 サリダ、 ドゥードゥ、 ハンキー、 ボーイ、 カニンガム、 ブキャナン、 マクドナルド、 ウィリアムソン、 ウェストマコット、 ウィルソン、 ウォーカー、 ウィルソン、 ウォーカー、 ウィルソン、 ウォーカー